

# 令和7年度 広陵町子ども・子育て会議 議事要旨

日時:令和8年1月15日(木)午後1時30分～午後3時30分

場所:広陵町総合保健社会館 4階 中会議室

## 1. 会議次第

---

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 議事
  - (1)広陵町子ども計画(素案)パブリックコメントの結果について
  - (2)広陵町子ども計画ワークショップの子どもたちの意見に対するフィードバックについて
  - (3)ときわ広陵子ども園の開園について
  - (4)その他
5. 閉会

## 2. 配布資料(事前送付分含む)

---

- ・会議次第
- ・広陵町子ども計画(第1期)パブリックコメントにおける意見及び回答
- ・広陵町子ども計画(第1期)素案に係るパブリックコメント後の変更箇所
- ・広陵町子ども計画ワークショップの子どもたちの意見に対するフィードバックまとめ
- ・広陵町子ども計画(素案)
- ・広陵町子ども計画(案)子ども版
- ・ときわ広陵子ども園の開園について

## 3. 会議出席者

---

委員 16名のうち11名出席

事務局 10名

オブザーバー 2名

## 4. 議事要旨

---

1. 開会  
事務局の進行により開会
2. 教育長あいさつ

#### 〈教育長〉

「本日、1月15日小正月を迎え皆様にご挨拶申し上げます。今年は 60 年に一度の丙午の年であり、教育委員会だより 1 月号では丙午について特集した。丙午には、迷信や江戸時代の井原西鶴の作品に由来する特別な意味があるが、「炎が照らす挑戦と飛躍の年」としてポジティブな一面もある。今年が皆様にとって素晴らしい年になることを願っている。

昨年から、小中学校児童・生徒会代表が集まり、「笑顔あふれる学校、広陵町」を目標にしたこども会議を行なっている。その中で真美ヶ丘第一小学校の児童たちが、ナスの皮の成分を活用した地元靴下工場との染色アイデアを提案した。この創造的な取り組みは、広陵町の魅力を全国、さらには世界へ発信する可能性を感じさせる。こどもたちの意欲的な提案に感謝するとともに、今後の発展を期待している。

本日は第5回広陵町子ども・子育て会議を開催について、会長をはじめ委員の皆様にご出席いただき感謝申し上げます。前回の第 4 回会議は昨年 11 月 13 日に開催し、「こどもたちと作る地域の未来」という基本理念を決定した。その後、パブリックコメントを募集し、多くのご意見をいただいている。本日は、その内容やワークショップでのこどもたちの意見に対するフィードバックを検討し、今年4月開園予定のときわ広陵こども園についても報告させていただく。」

### 3. 会長あいさつ

#### 〈会長〉

「教育長が教育委員会だよりで紹介されていた丙午のエピソードを拝読し、出生率低下が続く中、前向きなメッセージによって少しでも良い影響を与えられればと感じた。また、「こども会議」の内容や昨年度の小学校の取り組みについても詳しく掲載されており、改めて地域を盛り上げる活動の素晴らしさを実感した。今年度の活動についても新たに知ることができたため、靴下会議のメンバーにも共有したいと思う。

先週、畿央大学で付属校と大学の共催によるファミリーコンサートが開催され、400 名以上の親子が参加し、未就園児も来場可能な盛況なイベントとなった。また、広陵町では文化イベントが少ないとの声を以前公民館の委員から聞いていた中で、こうした取り組みは素晴らしいと感じた。さらに、昨日、広陵図書館でイタリア語児童書の翻訳家によるイベントが行われ、図書館では定期的にこうした催しを実施しているとのことである。在勤者は教育委員会だよりが届きにくいいため、LINE などで情報を発信すると町のブランディングやポジティブな印象向上に繋がると思う。今回パブリックコメントにおいて丁寧な対応をいただき感謝申し上げます。本議題について皆様の忌憚ないご意見をお聞かせいただければ幸いです。」

### 4. 議事

#### 〈事務局〉 議事(1)について説明

配布資料に沿って、広陵町こども計画(素案)パブリックコメントの結果についての説明を行なった。

〈会長〉

「議事1番について委員の皆様のご意見をお聞きする。」

〈委員 A〉

「こども計画の素案について、調査結果や課題分析を反映していただき、非常に良い内容になったと感じる。パブリックコメントへの回答について、少し意味のある内容にしていきたい点があるため、統括センターとしてご検討をお願いしたい。

意見番号9番「駐車場」の部分について、「指導してまいります」という表現は少々高圧的に感じられる。例えば「ご理解いただけるようお伝えします」など、柔らかな表現に変更していただければと思う。

また、こどもの居場所について、様々な意見が寄せられていると思う。住民や児童、生徒の皆さんがこどもの居場所をどれだけ知っているのかが気になる。以前に案内チラシを拝見したが、非常に分かりやすい内容だった。これが全校や児童、公共施設に配布しているのか、またどのように情報発信しているのか教えていただければと思う。

加えて、学校の先生方がこうした居場所について紹介しているのか確認したい。さらに、この居場所の今後の取り組みや方針について、どのようにお考えかお答えいただけるとありがたい。」

〈委員 B〉

「今回たくさんのご意見を拝読し、非常に貴重な計画だと感じる。特に、意見番号16番の「こどもも親も切れ目なく支援する環境作り」について共感している。私自身も発達障害がいて親として感じたことを伝えさせていただく。

学校では入学前に面談や見学を通じて手厚い支援の説明をいただいたが、実際に入学後、担任の先生からの連絡では「問題なく過ごしている」「他の児童とも楽しく関わっている」という表面的な報告が主である。こどもは学校では集団生活をがんばって過ごしている一方で、家に帰るとストレスを発散している状況である。担任以外の先生のフォローについて何っても、「特に問題なく過ごしている」との回答しか得られず、少し物足りなさを感じる。

また、特別支援が必要な児童を担当する教諭が年度ごとに交代したり、他教科を兼任したりしていると聞きした。学校の体制や事情は理解しているものの、支援が必要な児童にとっては継続的に関わる大人の存在が重要だと思う。こどもに寄り添い、専門性のある支援を継続していただけるよう、町として後押ししていただける体制づくりを検討していただければ幸いである。」

〈委員 C〉

「今回の計画について修正してほしい点は特にない。どのように発信し、実行していくかが非常に重要だと思う。私は町の PTA 会長という立場であるが、PTA へもぜひ活用していただければと思う。

また、保護者への連絡に関して、最近は「テトル」のようなオンライン配信での連絡が増えている。しかし、重要な内容については紙で配布していただけるとありがたい。印刷費用がかかる点は承知しているが、オンライン配信では読まない保護者もいる一方で、こどもが学校からプリントを持

ち帰ると「これをもたらしてきたよ」と保護者に渡すことで読まれる可能性が高い。時代に逆行する部分もあるが、紙での配布を検討いただければと思う。」

#### 〈委員 D〉

「パブリックコメントの意見番号2について質問させていただきたい。真美ヶ丘中学校の2年生のクラス数が、1年生時の4クラスから3クラスに減った理由として教員不足があると聞いた。現在クラス人数が約40人と多い状況であるが、クラス数が元に戻る可能性はあるのか。

また、こども版パブリックコメント意見番号7番・8番の小学3年生対象の「かぐやちゃん教室」に関する意見についてお伝えする。こどもたちから、3年生以降も実施を希望する声があるが、以前の会議で3年生が重要な学年であることや、全ての学年で実施することが難しいという説明を受けた。そこで提案であるが、学童などで勉強したいこどもたちが集中できる空間を設けることは可能か。遊ぶこどもたちと勉強するこどもたちで空間を分けられると、こどもたちにとって過ごしやすい環境になると思うため、ぜひご検討いただければと思う。」

#### 〈委員 E〉

「パブリックコメントを拝見し、子育て世帯の移住・定住促進の支援が記載されていることに共感した。しかし、意見番号8番に関連して、保育園の入園が難しい場合があるという点が残念に思う。最近、当施設をご利用いただいた方の事例だが、広陵町で無償化の制度があるにも関わらず、保育園の入園希望者が点数不足で入れず、結果的に引っ越しを決断された。その方は、働きたくても預け先が見つからないため仕事を探せず、点数が取得できない状況だった。また、保育園の空きやキャンセルの情報について問い合わせた際、適切な説明を受けられなかったことも残念に感じる。

資料上では待機児童が少ないとされているが、実際には入園できず利用が困難な方がいるのはショックである。ぜひ、この問題について検討していただければと思う。」

#### 〈委員 F〉

「意見番号13番に関連して、園で行っている交流活動についてお話する。園では、行事後の時間を活用し、未就園児活動に開かれた場所を設けることで、こども同士や保護者同士が自然に繋がるきっかけ作りを行っている。また、地域の高齢者や子育て経験者が集まるサロンを活用し、総会やふれあい遊びなどの交流を行っている。

靴下の町として知られる広陵町ならではの活動として、着古した靴下を使ったパペット人形作りを親子で行い、地域の高齢者と触れ合う遊びを提供している。また、地域の方の協力を得て昔遊びや親子制作の動画も実施している。こういった交流を通じて、保護者が子育て経験を語る場を設け、不安の軽減や地域の見守りの力を高めることを目指している。

これらの取り組みがこどもの居場所づくりにつながるかはわからないが、園として地域全体で子育てを支える活動を進めている。」

#### 〈委員 G〉

「当園では、夏休みや冬休みなどに園児やお友達が保育園に遊びに来ることがある。子どもたちにとって居場所が必要であり、困っているケースもあると感じる。その際、保育の邪魔にならない範囲で遊べるよう配慮している。

また、地域でこどもの居場所を提供している「おきなのだ」や「エリシオン真美ヶ丘」の取り組みについての意見も参考にしているが、施設の場所が限られているため校区外の子どもたちが利用しにくいことが課題だと思う。小学校区ごとにそういった場所を設けることで、子どもたちの居場所がさらに充実するのではないかと感じる。」

〈委員 H〉

「こどもの居場所は多くあるが、それを町民全体に広く伝えるためには、紙ベースで「こうした場所があります」という情報をまとめて配布することが重要だと思う。また、北小学校区にはこどもの居場所がないため、今後その点を考えていただければと思う。」

〈副会長〉

「私からは2点ある。まず、パブリックコメントの回答について、お子さんたちに内容を伝える際には、おきなのだとエリシオン真美ヶ丘の画像を添付した方が分かりやすいと思う。次に、小学校の先生からこどものストレスに関するご意見があるかと思うが、最近オンラインの相談が増えてきており、同じ専門的な支援者が継続して関わることが子どもたちの安心につながると感じている。」

〈会長〉

「広陵町の「こどもも親も切れ目なく支援する環境作り」は非常に素晴らしいと感じる。また、不妊治療の補助をしている点も素晴らしい取り組みだと思う。ただ、生まれてからの検診について、9～10ヶ月検診が広陵町には実施していないことを伺い、親として非常に不安になると思った。近隣では9～10ヶ月検診を行ったり、母子手帳に補助券をつけたりする取り組みがあるようで、一番不安な時期に専門の方の診察を受けられることは心強いと思う。このような現状を受け、広陵町を離れる選択をされる方がいることは非常に残念である。総合政策課でも人口減少への対応を進めている中で、こうした取りこぼしがあるのはもったいないと感じる。」

〈会長〉

「これまでの意見につきまして事務局から回答をお願いします。」

〈事務局〉

「まず、こどもの居場所作り事業について簡単に説明する。この事業は現在、広陵町内の東小学校区、西小学校区、真美ヶ丘第一小学校区で実施している。周知方法は、全小・中学生へのチラシ配布、広報誌、LINE、ホームページを通じて行っている。必要に応じて追加でチラシを配布する対応はさせていただく。

また、北小学校区と真美ヶ丘第二小学校区には現在こどもの居場所がない状況である。今後は地域の公民館や集会所を活用し、自治会の協力を得ながら、新たな居場所を設置する計画を進

めていく。各小学校区に1ヶ所以上設置できるよう調整を図り、さらに拡充を目指していく。」

〈事務局〉

「広陵町では現状、全ての児童が希望する園に入れている状況ではなく、待機児童が発生している。特にどの園でもよいので入園したいと希望される方については、空きが出た際に選定し、ご案内をしている。一方で、特定の園を希望される場合は園の人気により空きが出にくく、すぐ埋まる状況である。

少子高齢化で児童数が減少する見込みはあるが、現状の待機児童への対応が課題となっている。町としては、例えばときわ広陵こども園のように幼稚園と保育園の機能を兼ね備えたこども園への移行を進め、受け入れ園児数の拡充を図りながら待機児童の解消に努めていく。

意見番号9番の馬見労務保育園の駐車場について、保護者の方に別途駐車場があることを案内するよう、園側に指導していく。また、園から保護者に向けて周知を進めていただくよう図りたいと考える。

次に学童についてだが、現在非常に人気が高く、特に本年度は学童を希望しても入れない高学年の方が多くいる状況である。そのため、まずは学童の受け入れ枠確保を最優先に進めていく。その後、運営面については、例えば勉強する教室と遊びの教室を分けるなどの工夫を検討し、クラブ側とも相談しながら対応を進めていきたいと考える。」

〈事務局〉

「意見番号2番についてお答えする。真美ヶ丘中学校2年生のクラスに関するご質問だが、教員が不足しているわけではない。学級数は児童生徒数によって決定され、その人数に応じて4クラスや3クラスといった形になる。教員不足が原因で学級数が減ることではないため、その点をご安心いただければと思う。」

〈教育長〉

「教員数について、基本的には教員定数によって決まっている。中学校では来年度から1年生が35人学級になるが、現在は40人学級が基本である。なお、小学校はすでに全て35人学級で運営している。中学校については順次35人学級へ移行していく予定であり、その影響で状況が変わることをご理解いただければと思う。

また、加配制度により県や国から教員を増員する場合もあるが、人数がギリギリの状態である場合や生徒数が減少することでクラス数が減り、それに伴い教員も減ることがある。例えば、真美ヶ丘中学校では以前は1学年5クラスであったが、生徒数の減少により現在は1学年約3～4クラスとなり、来年度はさらに減る見込みである。このような状況をご理解いただければと思う。」

〈事務局〉

「意見番号16番についてお答えする。人事異動により先生が変わってしまうという心配があるかと思うが、その学校には一定の支援員や先生を配置し、継続的にお子さんへの対応ができるよう努めたいと考えている。継続した支援ができる体制を整えていくことを目指している。」

〈教育長〉

「委員 B からのご意見についてお話しする。担任の先生方が忙しい状況で、生活やこどもの様子の情報共有が難しいという課題があるが、保護者の方がこどもに直接様子を聞くことも一つの方法かと思う。こどもが普段と違う様子を見せている場合には、声掛けをしてあげることで、学校や家庭での状況を話してくれることがある。また、学級だよりなどでこどもの様子を共有する取り組みを以前行っていたが、現在では先生方の忙しさから難しくなっている状況である。そのため、周囲がこどもに寄り添い、様子を聞いて情報を得ることが有効ではないかと感じる。

期末懇談や三者懇談、二者懇談の際には先生方にこどもたちの様子をしっかり聞いていただき、保護者と情報を共有することが良い方法だと感じる。また、特別支援を必要とするこどもたちに対しては、専門性の高い先生が継続して担当し、こどもや保護者にとって安心できる環境を提供することが重要である。ただし、教員の人事異動があるため、なるべく同じ先生が数年継続して担当することが望ましいと考えており、その旨を学校側にはお伝えしている。この点について、ご理解いただけると幸いである。」

〈事務局〉

「広陵町では、2つのこども園、5つの保育園、3つの幼稚園があり、3歳以上の幼稚園には空きがある状況である。幼稚園の預かり保育は2時半～4時までとなっており、就職を検討される方には利用を推奨している。保育施設の入所についてはこども課で受付し、保育を必要とする優先度を点数化し、点数の高い方から希望に沿った形で割り振りを行っている。ただし、特定の希望園がある方が多く、希望が集中する園では空きが出にくい状況である。希望する全員が理想の園に入園できる状態を目指しつつ、施設拡充の可能性も含め今後検討するため、ご理解のほどお願い申し上げます。」

〈会長〉

「そのほか、こども計画(案)を承認することにご異議はないか。」

～異議なし～

〈会長〉

「ご質問等が無いため、こども計画(案)を承認する。」

〈事務局〉

「広陵町こども計画(案)の承認をいただいたため、広陵町こども計画案および概要版について、今後のスケジュールを説明する。まず、いただいたパブリックコメントの結果を広陵町のホームページで公表予定である。こども計画案は最終チェック後、3月の広陵町議会に上程し、議決いただき次第、策定される。策定後、概要版を作成し、本編と合わせて公開準備を進める。完成した計画は委員の皆様へ送付するため、確認をお願いする。また、計画内の135ページに委員名簿を掲載

しているため、内容に間違いがないか確認をお願いします。」

〈事務局〉 議事(2)について説明

配布資料に沿って、広陵町子ども計画ワークショップの子どもたちの意見に対するフィードバックについての説明を行った。

〈事務局〉 議事(3)について説明

配布資料に沿って、ときわ広陵子ども園の開園についての説明を行った。

〈会長〉

「以上で議事を終了する。」

5. 閉会